

# 障連協にゅーす

NPO法人

## 第 4 号

発行日 平成17年1月10日  
 編集 NPO法人  
 旭川障害者連絡協議会  
 発行者 峰 木 光 春  
 住 所 旭川市宮前通東4155番地30  
 障害者福祉センター  
 「おびった」3F  
 電 話 0166-31-2226



■車イスバスケットチーム「旭川リバース」の練習風景

## 新年あけましておめでとうございます

二〇〇五年

|          |           |              |           |        |        |        |         |        |        |        |        |         |       |        |        |        |              |                |                |                  |                           |                   |              |            |       |
|----------|-----------|--------------|-----------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|--------|--------|--------|--------------|----------------|----------------|------------------|---------------------------|-------------------|--------------|------------|-------|
| 管理事務職員一同 | 相談役 高橋 正巳 | 相 談 役 惣伊田 敏行 | 監 事 富田 和信 | 川 尻 朝雄 | 村 瀬 稔幸 | 稲 垣 則子 | 大 橋 美智子 | 石 川 清詞 | 篠 田 良雄 | 佐 藤 忠公 | 田 辺 邦夫 | 平 山 ひろ子 | 鈴 木 勲 | 工 藤 フサ | 青 木 利子 | 荒 川 繁雄 | 理 事 長 峰 木 光春 | 副 理 事 長 荒 川 繁雄 | 副 理 事 長 青 木 利子 | 専 務 理 事 長 工 藤 フサ | 専 務 理 事 長 兼 事 務 局 長 鈴 木 勲 | 常 務 理 事 長 平 山 ひろ子 | 理 事 長 峰 木 光春 | 旭川障害者連絡協議会 | NPO法人 |
|----------|-----------|--------------|-----------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|--------|--------|--------|--------------|----------------|----------------|------------------|---------------------------|-------------------|--------------|------------|-------|





# 新年にあたって

NPO法人 旭川障害者連絡協議会  
理事長 峰 木 光 春



## 「市民の理解 地域の支え 本人の努力」

皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

障連協の法人化、旭川障害者福祉センターの運営委託から2年半を経過し、この間、旭川市をはじめ関係各位の御指導ご協力に対し、厚く御礼を申し上げます。

平成15年度の「おびった」の利用者数は15万1千人となっていますが、昨年も10月までに1万人以上の増加となっております。

さて、障害者を取り巻く環境は、平成15年から10ヶ年の「障害者基本計画」を国が策定し、障害者の自立と社会参加の支援等の施策が打ち出されましたが、一方で緊縮財政や三位一体改革で地方に財源が移る中で、地方の格差も広がろうとしています。現在の支援費制度についても在宅者の各種ヘルプサービスの負担増や施設入所者の食費や光熱費の負担金が徴収されるなど弱者へのしわ寄せが続いており、ゆゆしき問題と考えます。

NPO法人「障連協」は、障害をもつ方々と市民による理解と協力で共生する「街づくり」のために法人化したものであり、「おびった」はその中核をなすものです。

高齢者を含む一般市民の利用も目立ち、ウォーキング、水泳、球技の他、機能訓練等も増えています。昨年10月から「障害者支援相談室」の試みを行っています。常駐する保健師、看護師や会員によって、健康相談や生活相談も行っています。新年度より新規に地域生活支援の為に障害者をもつ方々の為に「料理教室」など新規のプログラムも検討しております。

また、市民とのふれあい事業として、地域住民との交歓会や市民委員会福祉部・民生児童委員協議会との交流も深める必要があります。体育館を使つての講演や映画などの文化事業

も好評ですし、障害者スポーツ「ボッチャ」はオリンピック種目であり、道内でも旭川が最も盛んですし将来に期待がもてます。終わりに、会員各位も地域で共生していくために自助努力を続けられることを願い、「とり」のように飛躍の新年にしたいものです。



# 仲間の快挙に拍手！おめでとうございます！

## 障連協 峰木光春理事長よりお祝いのことば

おめでとうございます。平山さんの受賞は運命を共にする障連協にとって、わがことのように喜ばしいことであります。



## 平成16年12月8日に旭川肢体不自由児者父母の会会長 平山ひろ子さんが厚生労働大臣賞(厚生援護功労者)を受けられました。

平山氏は流行性小児麻痺(ポリオ)の病名を持つお子さんがいたために、旭川市内の肢体不自由児マザーズホームでの活動を開始。平成16年度現在迄旭川肢体不自由児者父母の会副会長・会長として障害児の為に肢体不自由児学級などの開設、支援にあたりました。

また旭川養護学校に高等部を設置するた

めに、昭和58年から街頭署名等を行い、北海道へ請願する等の運動をとうし平成9年度に念願の高等部を設立しました。

その他、療育キャンプ(障害児の訓練目的として)、全国全道福祉大会開催、肢体不自由児者の成人式等、また愛の絵の具販売等、障害児者の社会復帰・参加・自立の向上に努力をされました。

## 平山ひろ子さん 厚生労働大臣賞受賞!!



# PARALYMPICS

## 特別寄稿



## パラリンピックが与えてくれたもの

日本パラリアンズ協会 会長 永瀬 充

昨年の8月と9月にギリシャのアテネにおいてオリンピック・パラリンピックが開催されました。今回は、長野とソルトレイクのパラリンピックにアイススレッジホッケーの競技者として参加し、現在障害のある方々のためのスポーツ発展に尽力されている、永瀬 充氏(28才)に原稿をいただきました。

障害のあるアスリートによる世界最高の舞台『パラリンピック』。10年前の自分にとっては未知の世界。もしかしたら耳にしていた言葉だったのかもしれないけれど、自分の意識の中に留まることなく通り過ぎていく言葉でした。その舞台に立ってみたいと思い始めたのは1995年冬、病院のベッドの上でした。

『慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(CIDP)』—これが診断された僕の病気でした。中学生時代はバスケットボールで汗を流し高校に入っても続けていましたが、入学した年の秋頃から足の調子がおかしくなり、しだいにジャンプすることも走ることもできなくなり、入院して検査を受けた結果、末梢神経が炎症を起こす難病と診断されました。高校1年生の時

と高校卒業後に2度入院し治療を受けましたが、進行を抑えることが精一杯でしばらくはこの病気と悪くなった手足と共に歩んでいくことになりました。

2度目に入院した19歳当時は進学した大学を半年で辞め、資格も免許も何もなく、これから就職するわけでもない中、ただ退院の日を待つだけの入院生活を送っていました。そんな中、僕の人生をまったく変えてしまったと言っても過言ではない出会い。いわゆる『障害者スポーツ』との出会いでした。車椅子でバスケットや陸上をし、手や足を切断した人もいろんなスポーツをしている。もしかしたら、また自分も思いっきり汗を流しスポーツをする事ができるかもしれないと興奮したのを、今でも昨日のように覚えています。し

かし、その当時の旭川では全くと言ってもいいほどスポーツをできる環境ではなく、車を片道2時間3時間走らせ、札幌や苫小牧で行われていたアイススレッジホッケーや車椅子バスケットボールの練習に参加し始めました。そして、本格的にやろうと選んだのが『アイススレッジホッケー』。せっかく北海道にいるし、カツコよく面白そうだからというのと、もしかしたら1998年に長野で行われる冬季パラリンピックに出場できるかもしれないという可能性があった



アイススレッジホッケー 世界選手権大会にて

というのが本当のところ…。

その後練習を積み重ね、全日本代表のゴールキーパーとして2度のパラリンピック(1998長野・2002ソルトレーク)と2度の世界選手権に出場することができました。今年はアテネオリンピック・パラリンピックということで、大きく報道にも取り上げられ盛り上がったのも記憶に新しいですが、僕が目指す次の冬季パラリンピック『2006トリノ』まではあと1年ちょっとと迫り、気持ちは既にそれに向かっています。

僕はいつも何事に対しても目標やテーマ、モットーと言うのを持っていて、スポーツを始めて長野大会に出場して大切だと感じたのは『自分と目標』という言葉です。自分は誰なのか、何をしたいの、何ができるのか、自信を持ち、そして失敗を恐れず目標に向かって進むこと。そして、今の自分がパラリンピックに向けテーマとしているのが『誇りと感謝』。オリンピックに比べれば確かに競技人口も少なくスポットライトも当たらないパラリンピッ

ク。しかしそれを目指し、その舞台に立つアスリートたちの内面は年々オリンピックアスリートのそれと近いものとなってきています。毎月合宿を行い競争の中で得た全日本代表という言葉。特にアイススレッジホッケーのようなチームスポーツでは、一人一人の名前で戦うわけではなく、チームとして、日の丸をつけた日本代表チームとして戦うことをとても名誉なことだと思います。チームのために自分がすべきことをし、その結果が勝利であればこの上ない喜びです。15人が同じユニフォームを着て一つとなり、10日間戦い続けて手に入れることのできるたった一つのメダル。過去2回の大会では5位、6位と上位チームとの力の差が歴然としていましたが、年々力の差が縮まりどのチームが優勝してもおかしくなくなってきた最近の情勢で、これまで培ってきたものを全て出し切り、悔いのない終わり方ができればと思っています。

そして、今までは『自分』というものが強かったのですが、やはり自分がここまで来ることができたのは両親をはじめ、応援してくれる多くの方々がいてこそこのものというのを強く感じ、その方々への感謝を日々忘れず、練習を積み重ね大会に臨みたいと思っています。パラリンピックアスリートには大きな社会的責任があると僕は思います。そのアスリートの姿は多くの人たちを感動させ、子供たちのロールモデルとなります。特に今スポーツをしている障害のある子供たち、これからスポーツをしてみたいという子供たちが『パラリンピック』という夢を持ってスポーツをしてくれたらと思います。スポーツはたくさんのことを僕に与えてくれました。肉体的な強さはもちろん、精神的な強さ、いろいろな場所に行き、多くの友人ができ。今の僕にとって最大の財産は、人とのつながりです。スポーツを通して実に多くの人と出会うことができ、それがこれからの人生にとって最も大切なものとなるでしょう。これからも多くの人と出会い、共にスポーツを楽しんでいきたいと思います。誇りと感謝を忘れずに、スポーツを続けていきたいと思っています。



ソルトレークパラリンピック 選手村にて

# 「障連協のうごき」 (平成16年8月～12月)

## 平成16年度 旭川市障害者スポーツフェスタ

と き：平成16年7月18日(日)午前9時30分  
と ころ：旭川市大雪アリーナ(旭川市神楽4条7丁目)  
主 催：旭川市  
旭川市障害者スポーツフェスタ実行委員会  
事業実施者：NPO法人旭川障害者連絡協議会

熱戦に会場盛り上がる

### 大会スローガン

風かおる大地に集う今日の日が  
ぬくもりかよう豊かな街に  
育てて行こう福祉の輪

難病連の会員による元気いっぱいの選手宣誓で  
いよいよスタートです。

スポーツ協会より競技の説明と準備体操で身体  
をほぐし、事故のない事を祈って競技が開始され  
ました。

NPO法人障害者連絡協議会が、この事業を市  
から引き受けて2度目のフェスタです。

プログラムはそれぞれの障害に合わせた内容で、  
皆さん一生懸命頑張って盛り上げてくれましたが、  
日ごろの運動不足を感じた方も多かったのでは？

お昼の休憩には「旭川消防音楽隊の吹奏楽とバト  
ントワリング」が披露された。「バトントワリング」  
見るのは初めてという方が多かったと思います。  
低・中・高の学年に分かれて鮮やかな演技と可愛  
らしいバトントワラーに拍手喝采。

本日の参加者は、障害者13団体と一般合わせ  
て225名、ボランティア61名で合計286名  
でした。

競技の合間を縫って参加者、ボランティアの皆  
さんにインタビューしました。

#### ◇参加者の一言

＊3年前に倒れ、昨年から参加している。(身障  
協会西神楽分会)

＊札幌に出た。2等賞になった。(育成会)

※色々な障害を持った人たちが1つの事をやるの  
は本当に大変ですが、自立の一環として市が与え

てくれた試練！と受けとめたい。今は人任せの時  
には味わう事の無かった達成感がある。今後も各  
団体と力を持ち寄り、やっていきたい。

報告者：大橋 美智子

### ■障害者スポーツフェスタ



1



2



3

| No | 写真の内容紹介        |
|----|----------------|
| 1  | 旭川消防音楽隊の吹奏楽    |
| 2  | 盲人福祉協会の白熱する綱引き |
| 3  | 札幌でゴールする選手     |



## 平成16年度 旭川市障害者球技大会

と き：平成16年11月21日(日)午前10時  
 ところ：旭川市障害者福祉センター「おびった」  
 (旭川市宮前東4155番地30)  
 主 催：旭川市障害者球技大会実行委員会

平成16年度旭川市の障害者球技大会が障害者福祉センター「おびった」で2004年11月21日(日)に開催されました。主な種目はボッチャの部30チーム90人・卓球の部24人・サウンドテーブルテニスの部6人・フライングディスクの部など、ボランティアの助けを借りながら盛大に行われました。

### 旭川障害者球技大会競技結果

#### ■サウンドテーブルテニスの部

|     |   |       |
|-----|---|-------|
| 優   | 勝 | 池田 康男 |
| 準 優 | 勝 | 加藤 健二 |
| 3   | 位 | 新堀 清志 |

#### ■卓球 上肢体幹の部

|     |   |       |
|-----|---|-------|
| 優   | 勝 | 芳野 博子 |
| 準 優 | 勝 | 脇坂 明弘 |
| 3   | 位 | 谷口 年一 |

#### ■卓球 弱視の部

|   |   |        |       |
|---|---|--------|-------|
| 優 | 勝 | 河村 剛秀  |       |
| 準 | 優 | 勝      | 三浦 秀人 |
| 3 | 位 | 工藤 真由美 |       |

#### ■卓球 聴覚・知的の部

|     |   |       |
|-----|---|-------|
| 優   | 勝 | 板東 稔  |
| 準 優 | 勝 | 吉田 英子 |
| 3   | 位 | 池田 博道 |

#### ■卓球 下肢体幹の部

|   |   |       |        |
|---|---|-------|--------|
| 優 | 勝 | 川辺 幸男 |        |
| 準 | 優 | 勝     | 竹間 喜代志 |
| 3 | 位 | 桐越 好  |        |

#### ■フライングディスクの部

|   |   |    |       |
|---|---|----|-------|
| 優 | 勝 | 藤井 | のぼる   |
| 準 | 優 | 勝  | 池田 博道 |
| 3 | 位 | 川尻 | 朝雄    |

#### ■ボッチャの部

|   |   |    |                                |                       |
|---|---|----|--------------------------------|-----------------------|
| 優 | 勝 | …… | 美景園Aチーム<br>清野恭弘・今野喜志夫・小山武      |                       |
| 準 | 優 | 勝  | ……                             | 身障協会<br>山本英昌・宇野至・金田三江 |
| 3 | 位 | …… | 花咲ボプラチーム<br>谷潤一・山田弘美           |                       |
| 3 | 位 | …… | 旭川アカシア会Bチーム<br>山口静男・更谷美由紀・植西妃良 |                       |

### ■球技大会



| No | 写真の内容紹介               |
|----|-----------------------|
| 1  | ボッチャ大会の決勝戦            |
| 2  | 激しいスズの音を追うサウンドテーブルテニス |

平成  
16年度

# 『旭川市障害者週間記念事業』報告

報告者：富田 和信

■今年度から旭川市「障害者の日」記念事業が上記タイトルの名称に変わりました。

11月28日おびった体育館で車イスバスケットの映画「ウィニング・パス」の上映が市内有志による実行委員会の手で計画され、多くの市民がチケット販売や会場設営等に協力してくれました。当日は4回上映され延べ1,200人の入場がありました。車イスのスピード感あふれ

るプレーに大きな感動を覚えました。おびったに足を運んでくれた市民の数は過去最高の記録と思われます。

この日は同時に一階のロビーで12月4日まで旭作連の共同作業所製品の展示販売も行われ沢山の市民の人々に買い求めて頂きました。



ロビーでの販売風景

ウィニング・パスのチラシ



■12月4日午後1時より、例年通り一条通り買物公園丸井デパート前にて、小雨の降る中、各団体のご協力を頂き、30数名の参加のもと

5日の「障害者の日」記念事業の街頭啓発を行いました。

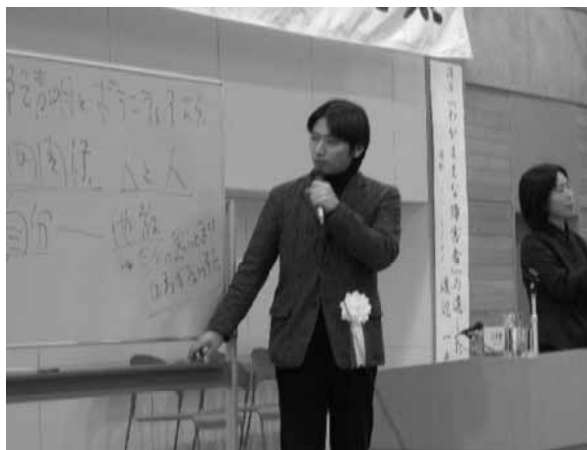


街頭啓発風景



■ 12月5日当日は、前夜からの雪による荒天にもめげず朝から多くの一般市民のみなさんが足を運んでくださいました。午前8時30分実行委員が集合、更に旭川教育大学生10名、旭川市立啓北中学生9名の学生ボランティアの熱い応援のもと会場設営に着手しました。

記念事業実行委員長および会場設営係の指示を先頭に手早く会場設営が行われ、22作業所の共同展示場が完成しました。展示即売会は予定時間より早く店開きをし、売り上げも成果が有りました。午後1時より、大宅壮一賞を受賞した「こんな夜更けにバナナかよ」の著者渡辺一史氏の記念講演「わがままな障害者の遺したもの」と講演前には視力障害者山田修氏の指笛演奏がありました。山田氏の指笛によるオープニング演奏「北の旅人」



「こんな夜更けにバナナかよ」  
の著者：渡辺一史氏

はじめ「クリスマスメロディ」等美しい数曲は盲導犬の愛犬ナナと共に、会場のみなさんに大きな感動を与えました。渡辺一史氏は講演の後、著書のサイン会を行いました。

前夜来の雪、悪天候の中、平成16年度の「旭川市障害者週間」も5日の記念事業をもって障害を持つ方々や家族関係者に生きる力と喜びと感動の数々を与えて終了致しました。実行委員会の皆さんと学生ボランティアのみなさんに心から感謝申し上げます。



山田修氏と盲導犬の愛犬ナナ



「旭川市障害者週間記念事業」会場



ボランティア紹介

## NPO法人 旭川障害者連絡協議会

## 障連協 加盟団体の動き

## ◆ 社団法人 旭川手をつなぐ育成会

会長 峰木 光春

旭川市宮前通東4155番地30  
TEL 37-9010

4月の通常総会で、平成16年度の事業計画・予算と花咲ポプラ共同作業所の新築事業、育成会事務所の移転などを決定しました。

長年の懸案であった「花咲ポプラ共同作業所整備事業」については、当初に予定した国庫補助事業は不採択となりましたが、育成会の単独事業として実施することとし、8月の臨時総会で整備計画を決定しました。

時間的に制約のある事業でしたが、関係者のご協力をいただきながら、12月19日、無事に新築移転を済ませることができました。今後は、新しい施設を有効に活用し、利用者の皆さんに喜んでもらえる施設運営のために、役員・職員ともどもにさらに努めていきたいと考えています。

11月1日、旭川市障害福祉課、旭川障害者連絡協議会のご配慮をいただき、育成会の事務所を「おびった」3階に移転いたしました。

街の中心地から離れたために、バスを利用する会員の皆さんには少しご不便をおかけしていますが、各団体の皆さん方との交流を深めながら、育成会活動の発展を期していきたいと考えています。平成17年の幕開け行事として、1月15日に新

年と新成人そして花咲ポプラ共同作業所の新築落成を祝う会を開催します。今年は、例年を上回る新成人の皆さんを迎えて、賑やかで楽しいひと時を過ごしていただきたいと思います。



## ◆ (社)旭川身体障害者福祉協会

会長 荒川 繁雄

旭川市宮前通東4115番地30  
TEL/FAX 34-6099

## 活動報告

## ①第53回全道身体障害者福祉大会参加

去る10月23日～24日の2日間に亘り第53回全道身体障害者福祉大会が伊達市において、全道より1,300名余の会員が参加し盛会に開催されました。

第1日目は、全体会議を行い、先ず本大会のスローガンとして

1. 障害当事者本位の地域生活支援システムを構築しよう。
2. 小規模作業所・通所授産施設への国の支援を拡充しよう。
3. 障害者の権利保障のための法整備を早急に整備しよう。
4. 連携と協調により障害者団体の一致団結を推進しよう。

以上の4点について全会一致で決議採択されました。

又、各、加盟団体より提出された要望事項が13件提出され全事項が賛成多数で採択され、翌24日は式典及び表彰式を行い、伊達市市長の歓迎の挨拶のあと表彰式を行い、当旭川の協会より(社)北海道身体障害者福祉協会会長表彰を、次の方々4名が受賞されました。(自主更生)大木菊男氏、



(援護功労)松崎四郎氏、鈴木芳雄氏、手戸三男氏、表彰式のあと、来賓として、北海道知事、道議会議長他の方々のご祝辞をいただき、最後に明年の第54回大会の開催地である美唄市より市長代理による挨拶のあと散会をした。この大会に旭川より会員58名が参加しました。

## ②平成16年度 障害者社会参加総合推進事業 (生活訓練事業)実施

障害者と健常者がふれあいを持ちながら、障害者も高齢者も「健康で楽しく暮らすためにはどうあるべきか」と題して、去る8月22日(日)13時より「おびった」体育館において、講師として美瑛町立病院総看護師長大谷順子先生をお招きし、講演・実技を行った。参加者より大変有意義な事業であったと喜んでいただきました。

## ③(社)旭川身体障害者福祉協会研修旅行

去る9月26日、恒例により留萌市神居岩温泉を会場として127名の参加により開催しました。



◆ 財団法人北海道難病連旭川支部  
 支部長 工藤 フサ  
 旭川市5条通5丁目1690-1  
 TEL・FAX 24-7690

## ■7月29日 「花火を観る会」

7月29日、夕方6時30分から新事務所の屋上で「道新花火大会」を観る会を開催、手作り会場と生ビールで盛り上がり、40名ほどの参加者はチョット遅く聞こえる「花火の音」と夜空を照らす「花火の光」に大満足でした。

## ■8月7・8日「難病患者・障害者と家族の全道集会(小樽大会)」

観光地「小樽」での開催、旭川支部からも50名以上の参加申し込みがあり、「福祉バス」と「自家用車」3台に分かれての1泊2日の旅でした。旭川支部として「第20回合同レク」の同時開催を計画し、2日目の「分科会」終了後、小樽市内観光を実施、ガラス工芸店通りの散策や有名店「かま栄」での買い物などを楽しみました。

## ■10月4日 「赤い羽根街頭募金活動」

10月4日、時々、小雨降る中での街頭キャンペーンと成りました。天候のせいもあり、15丁目銀座商店街には人通りが少なく、募金もあまり集まりませんでした。参加者は大きな声で「募金」のお願いをしました。

## ■10月9日 「JPC国会請願署名・募金活動」

10月9日、午後1時から買物公園の1条通りから2条通りにて、「JPC国会請願署名・募金街頭キャンペーン」を実施、支部役員と会員22名の参加でした。道議会議員の三井あき子さんも参加下さいました。

## ■11月10日 「なんれんあさひかわ」№61号発行

年3回発行の「なんれんあさひかわ」は11月16日に会員の皆様や関係機関・団体・個人の皆様に発送されました。(2,300部発行)

## ■12月19日 「第18回チャリティークリスマスパーティー」の開催

難病患者・障害者と家族及び一般参加者が「ダンスタイム」や「ジャズバンド演奏」を楽しみに250名近い方が参加されました。「オークション」や「お楽しみ抽選会」は毎年工夫が凝らされ、ワクワクドキドキの瞬間です。「ワゴンセール」では多くの企業・商店・個人の方々からお寄せ頂いた協賛品を大特価販売、毎年大人気となっております。



## ◆ 旭川アカシア会

代 表 青木 利子

旭川市4条通21丁目左7号  
TEL/FAX 32-7631

## 第4回障害者医療講演会を終えて

「ポスト・ポリオシンドローム」「貴方の補装具は合っていますか」「リハビリテーションとしてのスポーツ」に続き4回目の医療講演会の今年のテーマは「現代人のうつ病について」でした。

去る10月17日(日)大雪クリスタルホールにおいて、講師に札幌・三浦メンタルクリニック院長・三浦彌先生を招いて講演をいただき、当事者やその家族・施設や医療関係者など約400名の市民が参加し「うつ病」に対する関心の深さに驚きを感じました。

お話の中で、うつ病の診断基準を解りやすく説明してくださり、自分がうつ病ではないかと思ったら、まずは休養をとり、専門病院の診断を受け服薬は少なくとも一年間は続けることなどていねいに教えて下さいました。またうつ病を克服された札幌の本間さんから、根気よく治療を続け、家族や回りの人たちからの暖かい支援や励ましを受けて社会復帰をした体験談が語られ参加した多くの人たちに安心を与えてくれました。講演後の質疑応答やアンケートのなかでこの病気で苦しんでいる人々・家族がいかに多いか、自分に合った病院・医師を探す難しさ、周りの人々の理解と協力がいかに大切か、を知ることができました。多くの反響のなかに次の講演はいつですか?、もっとうつ病について知りたい、どこへ相談したらいいの?、などの声があり関心の深さを感じた講演会でした。

企画部 藤中 洋子



## ◆ 旭川肢体不自由児者父母の会

会 長 平山 ひろ子

(自宅) 旭川市神楽岡9条4丁目6-10  
TEL・FAX 65-3597/TEL・FAX 33-5940(おびった)

## 平成16年度 中～後半期の行事報告

## ■ 7月3日(土) チャリティービールパーティー

午後6時30分～ 北洋ビル8F  
多くの方々のご支援、ご協力を賜りまして盛大に終了致しました。

## ■ 7月11日(日) 夏のレクリエーション

例年通り予定しておりました神楽岡公園でのジンギスカンでしたが、雨天の為、場所を変更し、おびったの体書館にてお弁当を囲みゲームを楽しみました。

## ■ 8月2日(月)～4日(水) 療育キャンプ

## かんぽの宿 層雲峡

今年度は、近距離で二泊したいと言う参加者の希望もあった為、ゆったりとした日程の中機能回復訓練、医師診察、療育相談、整形診察、医師講義(勉強会)等、楽しく充実した療育キャンプとなりました。

## ■ 8月末 愛のえのぐ販売

収益事業として、各小学校の御理解、御支援、御協力を仰ぎながら、絵の具、えんぴつ、ボールペン等の販売を致しました。

## ■ 11月6日(土) チャリティーダンスパーティー

午後6時30分～ 北洋ビル8F  
今年度は、ダンススクールさんよりデモンストラーションの御協力を頂き華やかなパーティーとなりました。

## ■ 12月4日(土)～5日(日) 平成16年度旭川市障害者週間

PM1時～ 丸井前に街頭啓発活動

— 長 院長による療育相談 —



## ■12月8日 当会長 平山ひろ子 厚生労働大臣表彰式典

これまでの数々の功績が認められ厚生援護区分におきまして表彰受賞されました。

## 平成17年度 父母の会これからの行事

### ■1月8日(土) 平成17年度 成人式祝賀会

### ■1月15日(土) 冬のレクリエーション

AM10時～パークホテル(スカイレーン・焼肉じゅう)

### ■1月23日(日) 平山ひろ子氏 厚生労働大臣表彰受賞 祝賀会

PM6時～パレスホテル2F グランドホール

## ◆ 旭川リハビリ友の会

会 長 高 津 修

旭川市宮前通東4115番地30  
TEL/FAX 34-6099

## ■後期活動報告

障連協に対し日ごろ何かとお世話になっております、誠にありがとうございます。

16年度も上半期が経過し、当会も事業計画は順調に予定通り経過しております。特に会と致しましては、設立以来初めての試みとして、8月の「チャリティー・ビールパーティー」の一大イベントを開催しました。すべてが初体験により、準備期間やパーティー券発行販売に苦労致しましたが、肢体不自由児父母の会様より、ご協力やご助言等を賜り「手作りのパーティー」と称して会員のご家族の絶大なる協力を得て、食材の調達から調理まで、準備の時間に費やしながら少しでも経費を節約し豪華にしかも美味しい食べ物と苦労致したようです、思ったより参加者が多く、当日お客様のお帰りの時に、「来年も開催してください」、「たのしかったです」等のお言葉をいただき、大成功に終わったと認識致しております。しかしながら会員の参加者が開催の時間の都合により少なかったことが残念に思っておりますが、無い智慧を絞って今後の課題の一つとしたい。

9月には、会員の有志で、会員と会員の知人、友人等の希望者を募り、初めての(本州旅行)仙台バス旅行を計画を立て、9月26日～29日と参加者47名の内、会員31名でフェリー2泊、ホテル1泊と仙台松島めぐりをして来ました。障害者にとっては移動時間が必要であり健常者の旅行の3分1位しか観光地を廻れませんが、天候にも

恵まれ事故もなく楽しい思い出でも残ったことと思われまます。今回の旅行について、いくつかの問題点があることについて、今後の課題とし、より良い計画と企画に生かしたいと思ひます。

10月の例会「リング狩り」について、ご存じのように、50年ぶりの大型台風が北海道を通過し、萩原農園も全体の50%のリングが落下したにもかかわらず、農園のご配慮によって、当日当会の場所を確保していただき例会も無事実施することが出来ました。

## ■後期事業として

11月一日帰り温泉旅行

12月一日帰り温泉旅行

1月一新年会

2月一宿泊研修旅行

3月一健康相談



と計画しておりますが、会員には日帰り温泉は人気があり、毎回参加者が多くなっておりますので、同じ場所ではなく、近郊で障害者に適した設備の整った温泉地を役員が調査して、会員に提供するようにしております。まだ活動はしていませんが、外部団体【北海道ストローク友の会(脳卒中の会)】と交流や医療の講習等も受講して会員に情報の提供等も進めたいと思ひます。



## ◆ 障害者問題を考える会

代 表 中 野 章

旭川市5条通10丁目コミュニティーセンターふれあい内  
TEL/FAX 24-4971

## ■今年度の活動計画と今後の事業計画

広辞苑によると、「大過」とは、①大きな過失、大変なあやまち、②すぐれて大きいこと、度をこえて大きいこと、とある。

当会は、発足以来(障がい者の暮らしやすい街

は、みんなの暮らしやすい街)を標榜に、「外出手段」「就労の場」そして「ケアハウス」の実現を目指し活動している。前二つは、紆余曲折を経ながらも「ふれあい号」「ふれあい作業所」として、運営・維持している。

今年度も、多くの皆様のご協力を得て①の意の「大過なく」でも、②の意味の「大過なく」でもなく活動することができた。

「ケアハウス」の実現は、率直に言って極めて難しいと思われるが、「何時の日にか」という目標は、高く掲げ続けたいと思っている。

ガソリンの高騰、不足がちな運転ボランティアと、当会を取り巻く状況は極めて厳しい。だが、厳しければこそ継続してゆく意義も大きい。来年度も、せめて①の意の「大過なく」活動を継続してゆくのみと思っている。

#### ◆ 旭川身体障害者肢体福祉協会

会 長 川尻 朝雄

旭川市宮前通東4115番地30  
TEL/FAX 34-6099

当会は、旭川盲人福祉協会とともに(社)旭川身体障害者福祉協会の下部組織であり、各会長が同協会の副会長として会長を補佐し協会の運営に携わり、障連協及び市主催の事業や行事にも、会員が積極的に参加協力するよう努めています。

また、肢体協会独自の主な行事としては、4月定期総会、6月に施設見学研修会員交流旅行、10月に市民参加の「ふれあい広場」、12月に会員交流会を計画しています。また各地区に組織されている9分会でも各自行事を企画実行しています。

なかでも、去る10月10日に実施した「ふれあい広場」事業は、身体障害者と市民が共生していく地域社会作りを目的として、市及び社会福祉協議会の後援のもとに実施しています。

事業内容は、市民参加の歌謡ショー、参加者全員によるふれあい盆踊り、お楽しみ抽選会のほか障害者問題相談会、共同作業所作品展示即売会、福祉機器・介護用品の展示及び車椅子体験試乗会等の市民が親しみの持てるよう計画し実施いたしました。お蔭様で予想を上回る170～180名もの方達の参加を頂き嬉しい悲鳴をあげました。皆様方のご協力により盛大に実施できましたことを深く感謝申し上げます。



#### ◆ 旭川盲人福祉協会

会 長 村瀬 稔幸

旭川市宮前通東4115番地30  
TEL・FAX34-6099

#### ■北海道福祉伊達大会に参加

10月23日、24日、両日、北海道身体障害者福祉大会伊達大会に、身障協として約60数名参加。当盲協会関係者17名参加。23日は午後1時頃よりアトラクション、1時40分より全体会議、昨年度の経過結果報告等。2時40分より各分科会において、今年度の提案事項の答議が行われて、午後4時頃散会。

24日午後10時より全体会議行われ、各分科より提案案件の採択が報告され、宣言文、決議文が万場一致で了承終了した。

11時頃より式典が行われ、知事表彰、協会長表彰の表彰式が行われ、次期開催地は美唄と決定散会した。

当日は約800名位の参加でした。また当協会より4名が表彰され内盲協では大木菊男さんが表彰されました。誠にありがとうございます。

#### ■平成17年度行事予定

○1月16日 当盲協会平成17年度新年交礼会  
場所：銀ビル

○1月30日 旭川身体障害者 平成17年度新年交礼会参加

○2月4日・5日 深川市において全道障害者冬季スポーツ大会参加

以上の通り予定しております。

#### ■ 旭川視力障害者福祉協会

会 長 瀧田 幸明

旭川市東光15条4丁目3-4  
TEL/FAX 54-7137

旭川視力障害者福祉協会は昨年創立満30周年の記念の年でした。視覚障害者有志により設立しました目的の第一項には「視覚障害者の生活を守り高め、障害に対する正しい認識と理解を求める活動を行う」と有ります。

以来創立の理念のもとに30年活動して来ました。其の間多くの先輩も今は他界をした方々が沢山居りますが、会発足当時のメンバーで現在の瀧田幸明会長、水野源光副会長がしっかりと受け継ぎ会の運営を致して居ります。

当会の特徴は、視覚障害者と健常者（ボランティ



ア) が同じ資格で会の運営と共に障害者の手足となって活動して居ます。近年は旭視協の発展と共に入会賛同する人が増加して居る事は大変喜ばしい事と思って居ります。

年間行事も近年大きく内容が充実してきました。新年交礼会、4月の定期総会、5月の観桜会には野外で桜の花の匂いを満喫しては視覚者にとっては一番のご馳走で有ります。6月には春光台キャンプ場で天候の良い快晴の日を短期間で選んで野外ジンギスカンパーティを行います。この行事には春光地区の会員外の人がボランティアで準備設営から撤去まで手を貸してくれますので感謝の念でいっぱいです。昨年の9月には満30周年を記念して層雲峡温泉のかんぼの宿に全会員で一泊旅行を実施致しました、夜の懇親会そしてカラオケタイム等、時の過ぎるのも忘れて喜び合い湯の宿の楽しい一夜を満喫致しました。

旭視協も上部団体のNPO法人障連協の行事等にも積極的に参加すると共に全員が全道スポーツ大会にも参加して入賞をして居ます。

今年は更に当会としては視覚障害者でどの団体にも加盟して居ない人が沢山居ますので会員の増強を計ります。

昨年は日本国内で台風や地震など大きな事故災害が発生しましたが災害発生時には素早く高齢者・障害者などに救助の支援体制が十分整備されることが重要と思います。



## 入井峰生氏『おびった』に絵画寄贈

この度、道展旭川美術会 会長 入井 峰生様が画業50年を記念して旭川市に絵画を3点寄贈されました。その1点が「おびった」の1階ロビーに展示されました。

### 入井 峰生氏プロフィール

昭和12年3月生 67才

〈職歴に関して〉

北海道学芸大学旭川校(現教育大学旭川校)

美術科修了(昭和32年)

在学中、故 朝倉力男教授研究室にて油彩画の指導を受ける。

純生美術会会員、北海道美術協会(道展)会員

道展旭川美術会会長

旭川竜谷高等学校美術科非常勤講師

アトリエ

〒070-0832 旭川市旭町2条6丁目12

TEL & FAX (0166) 51-0763



# 【 】 【 】 新 コーナー 【 】 【 】

# 作業所めぐり

“働く事の喜びを感じて” — 旭川市内には現在28ヶ所の地域共同作業所が運営されており、障害のある方々の権利と発達、地域生活を支援していますが、今号よりその作業所での生き生きとした姿を取材することにしました。

## 障害者地域共同作業所 「かがやき工房」をたずねて

担当 施設長：滝田 仁

今年7月に現在地に移転した「かがやき工房」は、勤労者福祉会館の真横にあります。

作業所の中は年末を控え、どの作業室もパソコンによる年賀状づくりが行われていました。利用者数19名のうち女性が13名ということもあってか、忙しい中にも和やかな作業所風景でした。その「かがやき工房」を紹介します。

◇「かがやき工房」は1998年4月14日に、北海道難病連旭川支部が設置主体となって開設した全国で初めての難病患者を中心とする障害者地域共同作業所です。現在通所者19名、職員4名です。

### ◇「かがやき工房」というネーミングの由来

94年の北海道難病連全道集会(旭川)において、作家・三浦綾子氏の講演の中の「どんな病気でもどんな障害でも“一寸先は光”を信じて生きていきましょう」という言葉にちなんでつけら



「かがやき工房」  
旭川市5条通5丁目1690-1  
電話・FAX (0166) 29-1294

れました。

### ◇運営の特徴

出勤はフリータイム制、仕事はノルマなしが原則、作業所の主人公は通所者。職員は世話役、運営委員会はサポーターズクラブ(支援者)に徹すること。

### ◇作業内容

コンピュータを活用しての画像処理、名刺作成、チラシ、ハガキ、機関誌などの軽印刷をはじめ、ホームページ作成代行など。

### ◇旭川市障害者福祉センター内 1階喫茶コーナー「パストラル」の運営

### —滝田仁施設長のコメント—

このたび国は「グランドデザイン」を発表したが、4種類の施設体系に今後どのように対応していくのかという課題や、われわれの障害者福祉の中で応益負担が導入されて大丈夫かという不安がある。なにはとにかく利用者一人ひとりの難病の障害の程度に合わせて、こつこつとパソコンの技術向上を図り、利用者の工賃(手当て)アップにつなげていきたい。

### 「旭川しらかば作業所」の紹介

担当者 精神保健福祉士 伊藤 優美

私たちの「旭川しらかば共同作業所」は、1983年(昭和58年)6月1日に北海道では札幌、江別、千歳に次いで4か所目の「精神障がい者地域共同作業所」として開設しました。

精神障がい者というと、どのような人物像を思い浮かべるでしょうか。「怖い人、何をするかわからない人、へんな人」等。あまりよいイメージはありませんね。テレビや新聞の片寄った報道がよくないイメージづくりをしてきた、ということもあるかもしれませんが、ほんとうのところは、

障害をもつ人も、もたない人も、お互いをよく知らない、ということが大きいように思います。

しらかばには一年を通じて市内の看護学校から学生さんが実習に来ます。1日から5日間の実習のあと、皆さん一様に「普通の人ですね。やさしい人が多いですね。」との感想を述べられます。またしらかばでは春と秋に「しらかば祭り」(チャリティーバザーとフリーマーケット)を開きますが、近隣の方々が衣類や食器などを届けてくれます。私たちは売り子となって、訪れる人々と会話や交流を楽しみます。知り合い、友だちになることが互いをよく知るための一番の近道とを感じる時です。

#### ◇「しらかば」の名称の由来

北国でたくましく美しく生きる木。一人一人を大切にしながら、いっしょにやっていこうね。

#### インタビュー

##### 1. 作業所の男女の比率は

☆ 男23人女9人 計32人

##### 2. 今日の作業は・・・

☆ 荷物の包装です

##### 3. 仕事の斡旋などありますか・・・

☆ 適当な仕事はあまりありませんネ

##### 4. 貴方が運営面で大切にしていることは・・・

☆ 作業所に来ている人が自立できるように願っています

##### 5. いま最も問題だと思うことは何ですか

☆ 北海道や旭川市の補助金が年々少なくなること、心配しています

##### 6. 共同作業所にどんな事に気配りをしていますか

☆ 『しらかば』に来ている人が、表面から



「旭川しらかば作業所」  
旭川市春光町17番地  
電話(0166)51-7539

見ても障害が病気である事が分からないので心を痛めています。

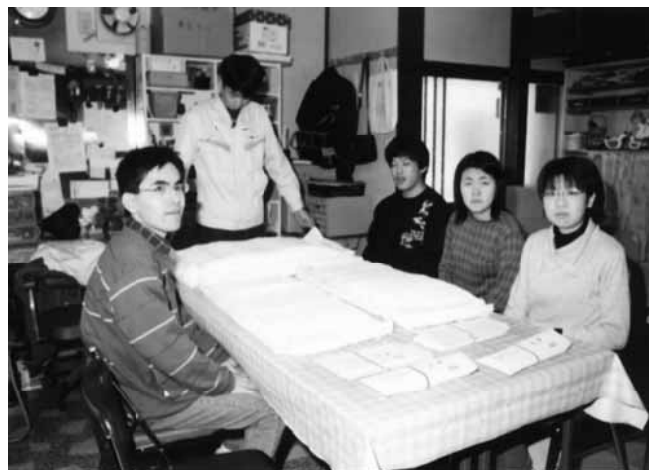
#### 地域共同作業所「ニムビン」の紹介

担当 運営副委員長：梅本 里美

私たちの作業所は平成13年度設立で、現在知的障害および精神障害の方12名が利用している作業所です。利用してくださっている方は5対7で男性の数が多く、16歳から30歳の比較的若い作業所です。色々な障害や個性に応じて職員は個々に向かい合っています。

仕事としては、下請け仕事や、夏は草むしり、冬は除雪とご近所や知人から依頼を受け働いています。作業所の特色としては元気で明るく毎日が過ぎていっている事、応援団がとても多い事、ご近所からの協力が得られている事ではないかと思っています。ボランティアの方もトールペイントの講師、毎週水曜日の本の読み聞かせと開設当初から関わってくださっています。

たくさんの方に手助けをしていただき感謝の毎日ですが、今現在とても困っている事があります。それは5人で始めた頃と同じ場所で作業をしていますのでとても狭く、身体の小さい私は埋もれてしまう状況になっております。どなたか安く作業所として場所を提供してくださらないかと願っています。つついお願いになってしまいますが宜しくお願いいたします。引き続き明るい活気のある「居場所」をめざします！



「ニムビン」  
旭川市8条通24丁目353-7  
電話(0166)34-8988

# 常任理事会の各部活動報告



## 事業部

担当常任理事  
佐藤 忠公

旭川障害者連絡協議会も2年目を向かえ、個々の事業実施に対しても昨年よりスムーズに進めることが出来たと思います。私たち自身が事業実施の要領を覚えてきたことでもあります。各事業にご協力いただいた関係機関・団体等のご理解と、多くのボランティアのご協力に支えられたことが大きく、心よりお礼申し上げます。

これらの事業を障害者自らの手で企画し実行することで、多くの障害者に社会参加の機会拡大を図って行きたいと思っています。

また、事業部に限らず、障連協が実施する事業とは別に、行政や他団体が行っている事業や施策の検討会等に要請されて参加する機会も増えて来ました。

障害者に限らず様々な施策は、これまで当事者の意見や要望を取り入れて行われることが少なく、出来上がったものを見てから手直しを行うということがありました。最近は、事前に当事者を交えた検討会などがもたれるようになり、私たちも障害者の意見、要望を述べると言う立場で参加を要請される機会が増えてきました。今年は、「旭川市市民交流センター設置に関する検討会」、国土交通省旭川運輸支局主催「交通バリアフリー教室」などに障連協を代表し参加しました。これらは地域環境のバリアフリー化が主なテーマですが、徐々に状況が変化してきており、これらの機会を通して積極的に障害者の実態をより多くの人に正しく理解してもらう為の活動を行ってゆきたいと思っています。

## スポーツ・文化部

担当常任理事  
田辺 邦夫

平成16年7月18日(日)約三百数十名の参加により大雪アリーナにおいて「旭川市障害者スポーツフェスタ」がとり行なわれました。昨年と同じ内容の競技種目ではあったが多くの障害別の方々

の参加があり盛り上がった大会でした。またアトラクションには旭川消防音楽隊・PL北海道第二ブロックMBAの参加協力により尚一層大会に華を添えていただきました。委託事業2年目となる事業でしたが佐藤忠公実行委員長のもと事故もなく無事終了いたしました。

また平成16年11月21日(日)約200名の参加により旭川市障害者福祉センター“おびった”において「旭川市障害者球技大会」がとり行なわれました。例年卓球・ボッチャ・公開競技のフライングデスクであったが、本年度よりフライングデスクを競技に取り入れ午前中卓球・ボッチャの敗者が午後からフライングデスク競技に約100名が汗を流しました。障害レベルにあまり左右されず誰でもが参加できる競技なので盛り上がった時間でした。

以上が「旭川市障害者スポーツフェスタ」「旭川市障害者球技大会」の報告です。

## 広報部

担当常任理事  
篠田 良雄

広報部が『障連協にゅーす』2003年6月に第1号を発行して早くも第4号になりました。各団体の総会が終わって年度初めの7月に発行する1回目と、正月を迎えて1月に発行する2回目は、それぞれお祝いの内容は違っても新鮮な気持ちには変わりがないのであります。

第3号の『障連協にゅーす』発行後早速反省会を行い広報部の内容を充実するため次の事を実行しました。

1. 盲人福祉協会や視力障害者福祉協会の皆さんに3号の全ページを録音して届けました。
2. 毎週月曜日に発行される福祉新聞を掲示する書架を購入し、三階の共同事務所においてあります。どうぞお気軽にご利用ください。
3. 障連協広報部の記者クラブでは“デジカメ”を購入して張り切って取材をしています。

☆広報部にお気づきな事がありましたらお知らせ下さい。

# 事務局だより

■ 事務所（「おびった」3階）  
〒078-8329 旭川市宮前通東4155番地30  
電話・FAX 0166-31-2226

大きく国の施策が変わり17年度から公的施設でも民間業者も参入できる「指定管理者制度」が実施されます。私達障連協も障害者福祉センター運営に参入させてもらう為の書類作成に10月は障連協三役と事務局は目の回る忙しさでした。市のアドバイスを頂いて相談する事が多く、またそれを短期間で集中作成という事もあり、法務局へ行く頃は事務疲れの状態でした。しかし、お陰様で11月9日、市より「指定管理者」に選定されたとの書類が届き一安心。しかし、平成17年、18年の2年間で何らかの実績を上げなければならないのも事実です。障連協の真価を問われているのです。

このような中でも心を癒す事がありました。

11月7日、旭川市消防音楽隊の演奏をゆっくり聴く機会を得ました。3部構成になっており、1部ではアニメ・テレビのメドレーに聴き惚れ、2部は「119番の日」にちなみ「一日指令室長」として全国中学柔道大会優勝者の上野巴恵さんになり、「コール119」のビデオ上映で119番の大切な役割が紹介され、無駄な119番を利用しないように気をつけなければならないと思いました。3部は懐かしい愛唱歌集、民謡、スーダラ伝説とアンコール曲もあり楽しい一時を過ごす事の出来た1日でした。

障連協から約70名の参加がありました。又来年も行うそうです。皆さん時間を作ってぜひ参加しましょう。

## 相談員学習会を終えて

障害者等支援相談室の各相談員に、お集まりをいただき、2度目の学習会を終えました。10月よりスタートした障害者等支援相談室は、ゆるやかではあるが、相談件数もあり、2度、3度と相談に見えられる方も出て来たところです。その為にも相談員の学習会は大切な資源になります。

第1回目は北海道療育園専務理事の江口武氏を迎え、9月30日午後1時より、相談事業における基本的な注意事項、①ゆっくり相談者の話を聞く事、②相談者の目線で目を見て話す事が大切とユーモアを交えて話された。

第2回目の学習会は11月30日午後1時より、道北勤医協一条通病院相談室長であり、

北海道医療ソーシャルワーカー協会北支部支部長鈴木幸恵氏を迎え、具体的な相談事業の実践を、ご自分の体験、失敗、成功例含め、相談者が来ていただける事で自分を知り、「成長させてもらえる」そして、一期一会を大切に、ゆとりをもって話を聞く事、等大変分かりやすく講義をいただきました。最後に参考文献や各種団体の研修に参加する事も大切としめくくられました。

私達、相談員はむずかしい局面にぶつかる時も多々あると思いますが、これからも学習会を重ねて、自信をもって相談にのれる様に心がけてまいります。

事務局長 工藤 フサ

## 北海道スポーツ大会 留萌で終わる

2004年の第42回北海道障害者スポーツ大会が留萌支庁管内で平成16年7月3～4日に盛大に行われました。旭川からの選手団は81名で大型バス2台に分乗して参加しました。

各種の障害別に競技が行われ成果をあげました。

※尚、第43回の次回大会は、平成17年7月9日(土)～10日(日)に室蘭市を中心とした西胆振管内8市町村で開催される予定です。



# スクラップ

■2004.7.19 (月) 北海道新聞

## 障害者ら競技で交流

### 旭川でス。ポーツフェスタ

旭川市主催の障害者スポーツフェスタ「ボーツの祭典「旭川市障」が十八日、同市内の大雪



車いすを使ったスラローム競技に挑戦する参加者ら

アリーナで開かれ、障害者と家族、ボランティアら約四百人が競技と交流を楽しんだ。

昨年から、市内十五の障害者団体でつくるNPO法人「旭川障害者連絡協議会」(鈴木勲理事長)が、同市の委託を受けて大会を運営。障害別の競技だけでなく、あらゆる障害者が参加できる競技も考案し、今回は十三種目を実施した。

車いすの操作術とスピードを競う「スラローム30秒」には、車いすを使い慣れた人だけでなく、普段は使わない人も出場。百五十名の袋の投てき距離を競う「ピンバック投げ」、チームで円盤を手渡し速さを競う「フラインクディスク送り」などでは、参加者が障害の種類や程度を超えて心地よい汗をかいた。

(藤村壮一)

■2004.11.26 (金) 北海道新聞

## 指定管理者を選定

市や市教委 33施設で  
4月から、経費8%減

旭川市と旭川市教委は二十五日までに、市の公の施設三十三施設の指定管理者を選んだ。現行の管理委託制度に替わるもので、市が出資していない株式会社も管理業者になる。市側は十二月一日開会の定例市議会に、関連の条例改正案を提出し、来年四月から指定管理者が施設を管理運営する。指定管理への移行で、施設の光熱費や委託料を含む管理経費は、管理委託と比べ合計で約8%減の見通しだ。

三十三施設のうち、市側は十六施設(業者数は十四)で指定管理者を公募。有限会社や民間非営利団体(NPO)などを含む三十八業者・団体が十施設に応募した。市側は、業者の実績や財務状況、サービス向上の実現性などを審査して選定した。残る十七施設については、公募は適当でないとして市側が業者・団体と直接交渉して選んだ。

公募したうち、市民の利用が多い、市直営のときわ市民ホールと勤労者福祉総合センター(両施設を一括管理)には最多の五業者が応募し、市が出資する旭川振興公社を選んだ。同じく市直営の江丹別若者の郷は二業者が応募、市が出資していない江丹別産業開発株式会社を選定した。

※旭川市が指定管理者を公募した施設は  
次ページ下の表を参照して下さい。

(町田誠)



# ブックを読む



■2004. 11. 22 (月) 北海道新聞

2004年(平成16年)11月22日(月曜日)



「ボッチャ」で的玉に向け玉を転がす参加者たち

## 名残の秋楽しむ

### ボッチャに大声援

140人参加し障害者球技

旭川

障害のある人たちが健康増進し、交流を深める本年度の旭川市障害者福祉センター「おびた」で開かれ、約百四十人が参加した。

参加者は、ボールを転がして玉にのっけ、近づけるかを競う「ボッチャ」(団体戦)や、

「いいぞ」「やった!」などと声援が飛んでいた。(町田誠)

ビニール製の皿を投げ、数分離れたネットの中に入った数を争う「フラインクディスク」(個人戦)、卓球(同)の二種目を行い、トーナメント方式などで優勝を目指した。このうち「ボッチャ」では、三人一組のチーム同士で対戦。選手たちが狙いを定めてボールを転がすたびに、観戦者から「いいぞ」「やった!」などと声援が飛んでいた。(町田誠)

■2004. 11. 26 (金) 北海道新聞

#### 指定管理者を公募した旭川市の施設と選定結果

| 施設名          | 現行委託先        | 指定管理者             | 応募数 |
|--------------|--------------|-------------------|-----|
| ときわ市民ホール     | 直営           | 旭川振興公社            | 5   |
| 勤労者福祉総合センター  |              |                   |     |
| 老人福祉センター     | 北部老人福祉センター   | 旭川市社会福祉協議会        | 4   |
|              | 東部老人福祉センター   | 同上                | 3   |
| 高齢者等健康福祉センター | いきいきセンター新旭川  | 同上                | 1   |
|              | いきいきセンター永山   |                   |     |
| 近文市民ふれあいセンター | 同上           | ニサカ・環境衛生指定管理者グループ | 4   |
| 神居デイサービスセンター | 旭川盲人福祉センター   | 旭川盲人福祉センター        | 1   |
|              | 旭正農業構造改善センター | あさひかわ農業協同組合       | 3   |
| 農村地域センター     | 永山ふれあいセンター   | 同上                | 3   |
|              | 東鷹栖農村活性化センター | たいせつ農業協同組合        | 3   |
| 江丹別若者の郷      | 直営           | 江丹別産業開発株式会社       | 2   |
| 忠和テニスコート     | 旭川振興公社       | 旭川振興公社            | 4   |
| 柔道場          | 同上           | 同上                | 3   |
| 東部スケートリンク    | 同上           | 同上                | 1   |
| 末広市民プール      | 同上           | 同上                | 1   |



# スクラップ

聞

2004年(平成16年)10月1日(金曜日)

■2004.10.1(金) 北海道新聞

## 障害者と家族を支援 「おびった」に相談室

旭川連絡協 5日開設へ研修会

民間非営利団体(NPO)法人「旭川障害者連絡協議会」(峰木光春理事長)は五日から、市障害者福祉センター「おびった」に障害

者の種類を分け、悩みや

知的障害、木曜は身体、視力障害、金曜は肢体不自由、土曜は難病に関する相談となる。

三十日には「おびった」で研修会が開かれ、約四十人の相談員らが参加。社会福祉法人北海道療育園の江口武・専務理事を

者や家族からの相談を受け付ける障害者等支援相談室を開設する。

同協議会は市内十五の障害者団体で組織。相談室では各団体の役員らが相談員を務める。曜日に

午前十時から午後三時まで。問い合わせは相談室



各種制度の相談などを面談や電話で受け付ける。火曜はろうあ、水曜は精神、



■2004.12.3(金) 北海道新聞

自閉症やLD

## 発達障害者支援法が成立

### 拠点整備し社会参加促進

自閉症や学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)といった発達障害のある子供らを早期発見し、適切な教育や医療につなげる体制を整備する「発達障害者支援法」が三日、参院本会議で可決、成立した。

知的な遅れがなければ自立に至るまでの総合支援と認められず、福祉サービスの網からこぼれ落ちていた発達障害の子供らの支援を、国と自治体に義務付けた初の法律。来年四月一日から施行される。

学習・行動面で困難を抱えたLDやADHDなどの疑いのある子供は小学生の約6%。知的障害も少ない。知的障害を伴わないと福祉サービスを受けられないなど、対策が立ち遅れていた。

超党派の議員立法でまとめられた支援法は、発達障害を「LDなどの脳機能障害で、症状が通常低年齢で出るもの」と定義。障害の早期発見から

たケアをすれば社会参加できるのに、一般の理解が低く診断できる専門医も少ない。知的障害を伴わないと福祉サービスを認められず、対策が立ち遅れていた。

### 道、センター増設検討

発達障害者への支援について、道は三日までに、本人、家族からの相談窓口や支援の拠点となる「発達障害者支援センター」を、来年度にも増設する方向で検討に入った。

道は二〇〇二年、函館市に「自閉症・発達障害者支援センター」を設立し、昨年度は六百三十七件の相談や支援を行った。

意向を明らかにした。

市に「自閉症・発達障害者支援センター」を設立し、昨年度は六百三十七件の相談や支援を行った。

意向を明らかにした。

意向を明らかにした。

# ブックを読む



■2004.12.6 (月) 北海道新聞

2004年(平成16年)12月6日(月曜日)

## 障害者へ広がる理解

三日から始まった障害者週間になみ、五日、旭川市内で、障害がある人の社会参加の促進や障害者福祉への理解を広げるため、車いすバスケットボールや講演会などの記念行事が開かれた。

(町田誠)

### 躍動車いすバスケット

#### 白熱プレーに観客ら沸く

旭川

車いすバスケットボールリバーズと美幌・岩見ないプレーで熱戦を繰り広げ、旭川市総合体育館 沢選抜の両チームが対戦。観客を沸かせた。旭川戦。ハンディを感じさせ、車いすバスケットは、四、五の両日に同体育館で開かれたバスケットボール日本リーグ機構(JBL)



熱戦を繰り広げた車いすバスケットボール

のスーパーリーグ旭川大会・オーエスジフエニックス(愛知)対新潟アルビレックスの前座で、昨年に続き二回目。旭川リバーズは高校生や社会人の男女九人で構成。黒いユニフォームに身を包んだ選手たちは、車いすを巧みに操りながら、技ありのシュートや素早いパス回しを披露し、相手選手を激しいぶつかり合いも。33-21でリバーズが勝利を飾った。

### 「介助の場で自分も成長」

旭川

「こんな夜更けに」著者 渡辺さん講演

「こんな夜更けに」は、全身の筋肉が衰えるで太極拳・ノック・ジョギングなどを受講した札幌のフリーライター渡辺一史さんが、旭川市障害者福祉センター「おひつた」で講演した。「介助とは自分を試される場だ」と述べた。本年度の旭川市障害者週間記念事業の一環。障害者や支援者ら約三百人が集まった。



著作を通じ実感した介助問題や人間関係について語った渡辺一史さん

ナをほしがらぬ仮眠中の介助者を起こした一史さんのエピソードを紹介。また「介助は美談ばかりではない。建前だけでは何も進まない」と強調。「例えば、障害者にも性欲はある。もし性的な介助を頼まれたら、どうするか。自らの性に対する価値観が試される」と投げかけた。

渡辺さんは「介助者たちは、障害者と何回も衝突し葛藤したが、互いに愛情の両方に踏み込み接していくうち、深く濃密で豊かな人間関係が築かれた。私自身も『人間』を愛えられたと結んだ。講演会後には、視覚障害者の山田修さん、小樽市が、特技の指揮を演奏した。

■2004.12.6 (月) 北海道新聞

# 障害者等支援相談事業をはじめました

日常生活の中で困ったことがある時、お知りになりたい事がある時など、気軽に支援相談室においでください。電話による相談も受付ています。

◆相談室：旭川市障害者福祉センター  
「おびった」内 機能回復訓練室  
(旭川市宮前通東4155番地30)

◆電話・FAX：0166-32-0065

◆相談時間：午前10時～午後3時  
(但し、祝日はセンター閉館のため休み)

◆相談室：各曜日担当の障害者団体による  
会員及び家族

◆その他：個人の秘密の厳守

◆利用料金：無料

※この相談事業は平成17年3月31日までの  
暫定スケジュールとしています。

## 相談日及び担当団体

| 曜 日 | 相談内容             | 担 当 団 体 名        |                                |
|-----|------------------|------------------|--------------------------------|
| 火曜日 | ろうあ相談<br>中難失相談   | 旭川ろうあ協会・中途難失聴者協会 |                                |
| 水曜日 | 精神相談<br>知的相談     | 第1週・第3週          | 精神障害者家族連絡連合会<br>旭川地域共同作業所連絡協議会 |
|     |                  | 第2週・第4週          | 旭川手をつなぐ育成会<br>旭川地域共同作業所連絡協議会   |
| 木曜日 | 身体・視力・<br>盲人相談   | 第1週              | 午前 旭川リハビリ友の会                   |
|     |                  |                  | 午後 旭川車イスの会                     |
|     |                  | 第2週              | 午前 旭川身体障害者福祉協会                 |
|     |                  |                  | 午後 視力障害者福祉協議会                  |
|     |                  | 第3週              | 午前 旭川アカシア会                     |
|     |                  |                  | 午後 盲人福祉協会                      |
|     |                  | 第4週              | 午前 障害者問題を考える会                  |
|     |                  |                  | 午後 旭川身体障害者肢体福祉協会               |
| 金曜日 | 肢体不自由児者<br>相談(親) | 旭川肢体不自由児者父母の会    |                                |
| 土曜日 | 難病相談             | 北海道難病連旭川支部       |                                |

## 編集 後記

2004年の夏はアテネのオリンピックに続いて開催されたパラリンピックでは日本の選手はソウル大会を上回る過去最多の『金』17個・『銀』15個・『銅』20個の52個のメダルを獲得したのであります。世界を相手にして勝得た選手の栄誉あるメダルは限りない努力の結晶を感じたのであります。

11月2日NHKでアテネ・パラリンピックに参加した日本の水泳選手成田真由美さんは『金』7個・『銅』1個の驚異的な成果を上げた事を放

映されました。インタビューのなかで次の言葉を話されました。私のメダルの結果ではなく「結果をだすまでの努力を知って欲しい」。成田さんは下半身マヒの車イス生活でした。私も右半身マヒで泳ぐと右に沈むのでした、私にとって障害は共通するだけに「努力」の2字は感動の名言だと思いました。

「障連協にゅーす」も出来るまでの、「各報道部員の『努力』を知って！」

広報部長 篠田 良雄

NPO法人 障連協にゅーす 第4号

■発行日／2005年1月10日

■編 集／NPO法人 旭川障害者連絡協議会

■発行者／理事長 峰木 光春

■住 所／旭川市宮前通東4155番地30

障害者福祉センター「おびった」3F

■電 話／0166-31-2226

■印刷：障害者地域共同作業所「かがやき工房」 ☎070-0035 旭川市5条通5丁目1690-1 TEL・FAX 29-1294